

筒井 豊春 (ツツイ トヨハル)

1951年7月29日生 福岡県出身

キャピタル・パートナーズ・ホールディングス(株) 代表取締役
キャピタル フィナンシャルホールディングス(株) 代表取締役
キャピタル リサーチ&インベストメンツ(株) 代表取締役会長
キャピタル・クエスト(株) 代表取締役
一般財団法人 日本・ベトナム文化交流協会 理事長
一般財団法人 野田育英財団 理事
一般社団法人 交詢社社員
東京ロータリークラブ会員



《筒井豊春の50年の職務履歴》

- キャピタル・パートナーズ・ホールディングス代表取締役 1996/7～
キャピタル フィナンシャルホールディングス* 代表取締役 2018/10～
2003/5 プルデンシャル生命の証券子会社買収、キャピタル・パートナーズ証券発足
2006/3 日本最大級 (1,529億円) の日本株ブロックトレードに成功
2006/4 一般財団法人 日本・ベトナム文化交流協会理事長に就任 (現任)
2006/12 日本初のベトナムファンド300億円の募集
2010/3 CSKから資産運用会社を買収、キャピタル アセットマネジメント発足
2012/10～2022/3 (9年6ヶ月) オービック顧問
2022/10～ 野田育英財団理事 (現任)
- ファーストボストン証券 1988/4～1996/6 (8年2ヶ月)
東証会員権取得、投資銀行本部長、在日代表東京支店長、日本証券業協会理事
- モルガンスタンレー証券1983/9～1988/3 (4年7ヶ月)
駐在員事務所の現地法人化、東証会員権取得・東証売買高で外資系不動のトップを確立
- 野村證券1974/4～1983/8 (9年5ヶ月)
1974/4 京都支店営業課：既発債と投信販売で預かり資産導入で新人トップの実績
1978/7 大阪支店事業法人部：現大和ハウス (当時の大和団地) にSF建て転社を
発行提案、他に西島製作所、松下電工、湯浅電池、日ハム等担当
1980/3 海外投資顧問室：日本初の“ロボット企業”として安川電機を買い推奨
1980/12 シンガポールノムラ：取締役執行副社長、アセアン諸国で多数の華僑開拓に
成功
1981/9 伊勢丹シンガポールを日系企業初のシンガポール公開上場して2,500名の
個人株主作りに成功。ジュロンシップヤード (IHI系) の上場マンドेटも獲得

《学 歴》

1970/3 大分県立中津南高校卒業
1974/3 九州大学経済学部経済学科卒業
1978/5 ペンシルベニア大学ウォートン・スクール経営学修士号 (MBA) 取得
1996/6 ハーバード・ビジネス・スクール上級管理職プログラム
(AMP/ISMP) 修了

《キャピタル フィナンシャルホールディングス* 100%子会社》

キャピタル・パートナーズ証券(株)	キャピタル アセットマネジメント(株)
キャピタル リサーチ&インベストメンツ(株)	キャピタル フィナンシャルアドバイザーズ(株)
キャピタル・クエスト(株)	
Capital Partners Vietnam Consulting Company Limited (本社 ハノイ)	

東京ロータリークラブ イニシエーションスピーチ

1. [生い立ちから大学卒業まで](#)
2. [野村証券で証券業務の基礎を習得](#)
3. [外資系投資銀行二社の立上げ](#)
4. [起業と持ち株会社設立へ](#)
5. [独立系金融持株会社の次世代への継承](#)
6. [慈善活動と奉仕活動](#)

只今、ご紹介に預かりました筒井でございます。昨年 1 月に中川陽一郎様と外立憲治様のご推薦で入会させて頂きました。本日は大先輩の皆様にイニシエーションスピーチの機会を賜り誠にありがとうございます。金融持株会社という少し特殊な職業分類ではありますが、これまでの私自身の歩みと、仕事を通じて学んで感じてきたこと、そして今後の展望をお話しさせていただきます。

1. 生い立ちから大学卒業まで

私は昭和 26 年 7 月 29 日福岡県の田舎の百姓の長男として生まれました。父は私が生まれる前に他界しており母と姉と三人家族の貧しい家庭で育ちました。幼稚園から高校までの親友に元陸上幕僚長の火箱芳文君がいます。東日本大震災時の陸上幕僚長です。各県知事や防衛大臣の命令を待たず首を覚悟で 7 万の陸上部隊に出動命令を下した男です。我々の誇りの人物です。

高校は火箱君と一緒に大分県立中津南高校に進学しました。中津駅前ロータリーには福澤諭吉の銅像が立ち、校歌にも「福翁の夢いずこ」と謳われ、本屋に行くと諭吉コーナーがありました。否が応にも福澤諭吉漬けの高校生活でした。「学問のすすめ」は諭吉が中津の幼馴染に充てた 17 編の手紙が元になったと言われていています。明治初頭は日本の人口は 3500 万人と言われていましたが当時何と 340 万部が売れたと言われていています。その書籍で諭吉は実学重視の勉強をするように中津の友達に伝えようとしたのです。

諭吉は我が国初の大学である慶應義塾を創立しますが、経済学部や医学部が看板学部に発展したのも諭吉の実学思想からだったと思います。

「学問のすすめ」で実学の経済学部と「西洋事情」で無意識に将来の留学を夢見ていたのかもしれませんが。地元の経済学部を受験することは自然な成り行きでした。

2. 野村証券で証券業務の基礎を習得

アルバイトに暮れた学生生活でしたが九大を卒業後、1974年4月に野村証券京都支店営業課に配属されました。大学時代にリクルート福岡支所での営業アルバイトでRPGなど最先端営業を学びました。毎日同期の仲間は飛び込み外交中心の営業でしたが、私は手紙外交中心に営業展開しました。結果的に1年後は同期入社300名中トップの営業成果を上げることになります。そこで8名の留学生候補に選抜され本社勤務となり生涯の盟友となる北尾君と知り合うことになります。大学院合格にも知恵を絞って東海岸のビジネススクールで最古のウォートン・スクールに滑り込みMBAを取得しました。帰国後は大阪支店事業法人部で上場企業20社を担当し企業経営者の警戒に接する機会が得ることができました。特にお世話になった経営者は、当時大和団地（現大和ハウス）の石橋茂夫社長と酉島製作所の原田龍平社長でした。大和団地のSF建て転換社債を契機に親しくして頂いた石橋茂夫様には他界される直前まで様々な薫陶を頂きました。外立先生とはこの外債発行がご縁で今日までお世話になっています。かれこれ47年のお付き合いです。

石橋社長はンターを持ってが口癖でした。明後日が命日で毎年甥御さんと墓参りに行きます。因みに石橋様のメンターは新日鉄の永野重雄さんだったそうです。昭和 30 年代に大和ハウスの株価が 50 円を割り込みそうになった時に大量の買い注文を入れて救ってくれたそうです。因みに私のメンターは勝手にOBIC の野田会長にさせて頂いています。

1980 年 3 月山手線内で数分で見初めた女性と 12 月に結婚します。SBI の北尾君に彼の結婚式の司会とバーターで私たちの結婚式の司会をして貰いました。その女性はたまたま当時の田淵節也社長の秘書をしていました。1980 年 12 月結婚式の直後にシンガポールノムラ取締役執行副社長として赴任します。英語のできない妻に付き添い週末アポロホテル内の伊勢丹書店によく出かけました。その伊勢丹との出会いが日系企業による初の IPO となり 2500 名の株主作りも実現できました。この IPO ビジネスもふとした偶然から生まれたわけです。3 年間に当時の田淵社長が 2 回ほど来星される度に晚餐をご一緒させて頂きました。「筒井、奥さんは元気か？」と妻を気遣ってもらいましたが、「シンガポールという小さな国に来て腐っていないか？」実際、NY の北尾やロンドンの熊谷などの活躍を羨ましく思っていました。「シンガポールが今後偉大な国家に発展するぞ。しっかり勉強して人脈を作りなさい」と仰いました。

しかし、今振り返ると田淵社長の慧眼には敬服するばかりです。その言葉がきっかけで東南アジア華僑 124 ファミリーを野村総研香港に調査委依頼しての開拓営業に邁進することになります。3 年で半分以上のファミリーが野村の顧客になって貰いました。その後の野村の東南アジア開拓の基礎を作ることが出来たと思います。

3. 外資系投資銀行二社の立上げ

留学を終えて 5 年を迎えた 1983 年 6 月 1 日にシンガポールノムラ拠点長に辞表を提出します。紆余曲折を経て 3 ヶ月後に退職させて頂きました。同 9 月 1 日にモルガン・スタンレーの東京駐在員事務所に転職しました。その後支店昇格や東証会員権の取得などで実績を上げ 6 年後ニューヨーク本店勤務となります。モルガン時代は株式本部に所属していましたが、ダラスやヒューストンに日帰り出張で 5 時ごろ帰社すると上司も誰もいません。ある日パーカーギルバード会長と帰りのエレベーターで一緒になりました。自己紹介の後雑談してビルの前で別れました。てっきり大型のリムジンが待機しているかと後姿を見送っていると何とすたすたと地下鉄に降りていきました。

一方、33 歳の若輩者の私如きが入社時から退職まで海外出張はすべてファーストクラスでした。NY—ロンドンを会議に間に合うようにコンコルドで飛んだこともありました。外資系投資銀行計 13年の経験で日本の年功序列や終身雇用との文化の違いや社員に対する待遇の違いを痛感しました。

弊社でも家族と健康を第一に掲げています。大半の役職員は 5 時に帰宅します。仕事は大事ですが家庭の方がもっと大事です。

NY 勤務中にファースト・ボストンのジャック・ヘネシーCEO に会う機会がありました。日本の戦後の政府系機関のドル資金調達はすべてファースト・ボストンが引き受けたと伝えられ、故越智美智雄元蔵相にも確認して、恩返しの気持ちで移籍を決意しました。東京支店長として 8 年間務めました。最後の数年は日本証券業協会の理事も務めさせて頂きました。

東京支店長の頃、米国大使館のフィナンシャルアタッシェを務めていたのが、ティム・ガイトナーです。後の財務長官です。米国人支店長に交じって会議に出席していると、ワシントンの高官が「Our national interest is」と聞かされると日本人としてその場にいることに違和感を覚えていました。米国組織の一員としての矛盾やより自由な経営への思いが芽生えてきました。多分に福澤諭吉の「独立自尊」が頭をよぎっていたのだと思います。

4. 起業と持ち株会社設立へ

1996年6月末にHBSのAMPの3か月特訓コースを終了して帰国します。その直後の7月4日の米国の独立記念日にキャピタル・パートナーズ株式会社を設立します。その日が私の独立記念日です。独立したからといってもすぐに収入がある訳でもありません。その頃、富士銀行の常務が急に訪ねて来てくれました。当時の笠井和彦副頭取から弊社と1年の顧問契約をするようにとの指示があったとのことでした。常務は過去に前例がないと言っておられましたが、笠井様のご好意に頭の下がる思いでした。それから毎月富士銀行証券部にテーマを決めて講義に出かけました。その後、笠井様はソフトバンクに移籍され孫氏の女房役として大活躍されました。残念ながら12年前76歳で他界されました。笠井様の御恩は今でも決して忘れません。

米国人親友の紹介が縁でニューアークのプルードンシャル本社の副会長との交渉で日本の証券子会社を2003年5月に買収することになります。外資系ファンドに日本企業が買収されていた時代に個人で外資系証券を買収したことになります。現在の弊社グループのキャピタル・パートナーズ証券です。その数年後安田信託のOBが作ったヒューミッド投信投資顧問と破綻したCSKの子会社プラザ・キャピタルの2社を買収統合してキャピタルアセットマネジメントが2010年3月に誕生します。

その後も順次、M&A 会社、金融商品仲介業、投資組合 GP 会社、ベトナム現法を新設していきますが、その 6 社を統合して金融持株会社が 2018 年 10 月に誕生します。経理、システム、人事、総務は持株会社に集約して必要に応じて各子会社にサービスを提供します。7 年が経過していますが、6 社の子会社が相互に連携しながらビジネスを進めています。これが独立系金融持株会社が生まれた経緯です。

5. 独立系金融持株会社の次世代への継承

ご存じの通り、金融証券業務は変化の激しい業界です。しかし、我が国では労働諸法による解雇規制があります。米国のように不振部門のスタッフを簡単に整理解雇できません。従って余剰人員が生まれた時はグループ会社間異動で調整します。証券会社は一般的にレバレッジ経営を行っていますが、私は 2008 年のリーマン・ショックを契機に無借金経営に転換しました。リーマン・ショック後の厳しい時期も独創的なアイデアで切り抜けました。その過程で得た最大の戦略は競争をしないことです。独占的に扱えるニッチビジネスの追求です。日本で初めてベトナムファンドやベトナム株の取扱いを始めました。VN 指数が 200 程度でしたが今や 1700 です。日本で初めて日本株ヘッジファンドの取扱いを始め今では 30 本以上です。お陰様で企業年金や大学基金との取引が始まりました。経済学では競争こそ経済発展の源泉と称賛しますが、ミクロレベルでは完全競争では利益を生みません。

今から 20 年後の 2045 年の世界はどうなっているだろうかと最近思いを巡らします。20 年前の未開のベトナム市場やヘッジファンドは予想以上の成果を上げました。問題は次世代に如何にこのニッチ戦略を継承するかです。その鍵は外国人材なのではないかと考えています。

20 年前から外国人新卒を採用してきました。今や 15%が外国人です。日本語、英語、自国語の最低 3 か国語を操ります。その上とてもハングリーです。米国の NVIDIA やテスラなど多くの企業が移民起業家が創立しています。中国人の若者失業率は 20%を超えていますが、やはり若者はハングリーで必死です。では日本の若者はどうか？過去の遺産にぶら下がっている若者が多すぎる気がしてなりません。

6. 慈善活動と奉仕活動

最後に、2006 年 4 月から 20 年日本ベトナム文化交流協会の理事長を務めています。国際慈善活動を通じて人が育ち両国の友好親善に貢献できることは本業の発展にも繋がっています。ロータリークラブの「奉仕の理念」に共感し、この場に加えていただきました。これからは仕事だけでなく、社会貢献の場でも皆さまと共に学び、行動していきたいと考えております。ご清聴、ありがとうございました。